

光受寺通信

NO.192

R7.1.1 発行
発行元 光受寺



新年あけまして

おめでとうございます。



昨年は、年明け早々に発生した能登半島大地震により、石川県を中心に壊滅的な被害が発生し、多くの人命も奪われてしまいました。また夏の異常な暑さと頻繁に起こった豪雨等によって全国的に災害が多発した年となつてしまいました。

この異常とも思われる気象現象については、日本に限らず地球規模で発生していることはニュースでよく耳にもし、周知のとおりなのですが、その原因は主に地球温暖化による気候変動が主な原因のようなのです。

便利さと快適を追い求める生活は地球を、自然を、犠牲にしてきたことを今更ながらに思い知らされてきた年でもありました。

さて今年一年、皆様はどんな思いで一年を過ごされようとしているのでしょうか。

私はこの一年、確実に衰え老いていくこの身を抱え「今日とも知らず、明日とも知らず」に怯えながら、ただ生きていくことになるのかもしれない。しかし一方では、そんな人生には絶対したくないとも思っています。いつ死んでもよいいつまで生きてもよい、ただ今いただいている人生のご縁をかけたがえのないものとして受け止め、日々を過ごしていきたいと思っております。

令和6年度

報恩講が勤まりました。

昨年の12月8日(日)報恩講をお勤めいたしました。多くのご門徒のおかげさまによって滞りなく執行することができましたことを心より喜んでおります。

特に本年の役員様方には案内配りから始まり、お磨き、お掃除、お斎の準備にお接待に至るまで大変ご苦勞をおかけいたしました。当日は小雨が降る寒い一日となつてしまいましたが、それでも多くの方にお参りをいただくことができました。

講師の方からは午前、午後とお話をいただきましたが、90歳というご年齢にもかかわらず、約3時間熱く仏法を説いてくださいました。

私も皆様と一緒に聴聞させていただきましたが、日常の具体的なお話を交えながらお話しいただき、とても心に沁みるお話でありました。

そんなお話の中で「死んだら終わり」という思いで生きていらっしゃる方のお話がありました。確かによく耳にする言葉で気にはかかっていましたが、どうお答えしてよいものかと思案しておりました。しかし、私たちは決して「死んだら終わり」の人生を歩んできたわけではないことを講師のお話を聞く中で確かめることができました。

「死んだら終わり」はその人が確かに生きてこられたという事実が白紙になることではありません。それはあまりにも身勝手に無責任な人生のように思えてくるのです。数知れないご縁に生かされてきた人生であったはずなのです。あなたが死んでも、あなたが残ったご縁が後の人の心に良くも悪くも「はたらいていく」ものなのです。



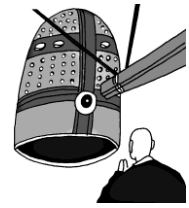
12月2日(月)お磨き風景。(上)

ピカピカになった仏具とお荘厳。



年末から年始にかけての行事

除夜の鐘



本堂入のお参りを
忘れないでね。

十二月三十一日(火)

十一時三十分～ 本堂にてお勤め

十一時五十分～ 除夜の鐘を撞(つ)き始めます。

令和七年

一月一日(水) 十時～ 元旦会

年の初めのお勤めをみんなで行しましょう。

正信偈 同朋奉讃

一月十八日(土) 午後二時～ 同朋会

今年最初の同朋会になります。お茶を頂きな

から、法話をユーチューブで聞いたりいたします。

一月二十三(木) 午後一時三十分～二時三十分

「お寺サロン」 廣専寺

お気軽にご参加ください。お待ちしております。

今月の掲示板

比べて生きる

人生に

幸せはない。

私たちはものやことを判断するとき、他と比べる「こと」によってしかできません。しかもその基準はとも曖昧であてにならないことや、ものなのです。しかし、そのことによって、苦しみ悩む人も少なくないのが問題なのです。

それは限られた世界での、一時の思い込みにしすぎません。

「私は私」の限られた人生を私らしく生きることが大切です。みんなそれぞれにかけがえのなく尊い人生を歩んでいるのです。

近年「墓じまい」ということで、依頼を受けることが多くなってきました。後を継いでくれる者がいないということが主な理由のようですが、たとえ子孫や縁者がいたとしても、それぞれ遠くで居を構えてしまっていたりして、日常のお参りすることは難しいようなのです。無縁仏にすることは、心苦しいのですが仕方ありませんとおっしゃいます。



かつては子供の数も多くいましたし、長男は生家を守っていくことが当たり前のこととして教育されておりましたので、いくら優秀な子供でも家から通勤できる会社を選び就職したことから、家を守り、墓を守ることができたのだと思います。

しかし、今は子供の夢や希望を第一義的に考えて、進路を考えますので必然的にこうしたことが起きているのだと思われれます。仕方がないことですかね。

ただ、今年行った「墓じまい」の後に困ったことが起きました。お墓の業者さんから施主の方に連絡があり、お骨が残っているのでもうしたらよいでしょうかということでした。光受寺にはお預かりする共同の墓も無く、ご先祖のお骨もバラバラでどなたのお骨か判別もつかない状態であったことから、仕方なく本山に相談してもらい、何とか納骨させていただくことができたそうです。実家から遠くに住んでいらっしやるたった一人の縁者である娘さんは本山から安心できますと、お喜びでした。

お知らせ

昨年の報恩講にお参りいただいた方のだと思われる傘のお忘れ物がありました。

心当たりの方は玄関の脇にお預かりしておりますので、取りにお越しください。

記事募集

皆さんからの投稿記事を募集しています。よろしくご協力ください。

